

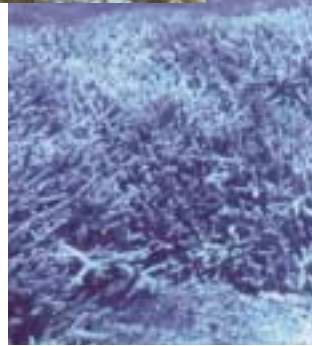
HIGH SPIRITS



スキューバダイビング

富士通デバイス株式会社
プロジェクト営業推進部 海外業務担当

片桐慶子



ひと、魚、たくさんの 出会いが待っている

5年越しの思いが実る

普段の生活を離れ、海中という別世界に漂えることが魅力のダイビング。

「とにかく楽しくて。次はいつ、どこに行こうって考えるだけでわくわくします」

そう語る片桐は、Cカード(ダイビングのライセンス)を取って2年の初心者ダイバー。本当は7年前、沖縄・宮古島で体験ダイビングをして以来Cカードが欲しかったが、地元で信頼できるダイビングショップがなく、お金がかかることもネックで、ずっと気持ちだけ温めていた。そして2年前、友人が紹介してくれたショップで念願のCカードを取得。以来、沖縄の離島やサイパンの海に潜り、すっか



左は会社の同僚でバディ(潜るときのペア)、
気心の知れたありがたい友人。

り虜になった。現在、潜水回数は45本。

「どうしてもっと早く取らなかつたんだらうって思う。もっと早く始めていれば、いろんな所へ行けていろんな魚が見れて、いろんな人と出会えたのにな。もったいなかったなあ」

海の楽しみ魚との出会い

ダイビングの楽しみの1つは魚との出会い。沖縄・粟国島ではギンガメアジの群れ、サイパンではマダラトビエイの群れを見た。

「60cmもあるギンガメアジが、頭上を何百匹も輪になって回ってるんですよ」「エイは59匹も群れになっていたんです。もう相当な感動でした。前日に76匹見たっていう話を聞いていて、『大きさに言うなあ、そんなに出るわけじゃないじゃん』と思っていたんですけど実際に見てびっくり! 岩にへばり着いて『すごい』って言いながら見てました(笑)」。

そしてデジカメで写真を撮りまくる。

「そのときは『これでもかー』という感じで、エイだけ50枚くらい撮りました。デジカメはシャッター感覚がワントン遅れるので、その間に魚がクルッと向きを変えちゃったりする。なかなか思うように

撮れないんですよ」

でも、見せてもらった作品はなかなかいい感じ。

「周りの人に写真を見せるのが楽しみで。みんなは迷惑かもしれないんですけど(笑)。今では液晶を通してしか魚を見ていないくらいです」

大物を見るためにスキルアップ

自称「大物好き」の片桐の目標は、「与那国島でハンマーヘッドシャークを見ること」。人を襲うこともあるという大型のサメだが、

「こちらから何もしなければ大丈夫だと思う。現地のガイドさんは、ここから見ると大丈夫というポイントを知っているから、それを信頼して」と片桐は意に介さない。それより大切なのはスキルアップだという。大物がいるポイントは、流れが速くて難しいのだ。

「まずは中性浮力(海中で浮きも沈みもしない状態を作ること)をきちんととれるようになること。スムーズに潜降できるようになること。もたもたしていると流されちゃうんですよ。あと、エア(空気)がもつよう呼吸がうまくできるようになること。流れが速いとがんばって泳ぐから、呼吸が荒くなってしまいうんです」

Cカード(正式名称はCertification Card=認定証)

スキューバダイビングの知識や技術を習得した証。スキューバダイビングの指導団体が定めたもので、学科・プール講習、海洋実習などを経て取得できる。国家資格ではないが、器材を借りたりガイドを頼む際、知識や技術を確認するために提示が必要。



去年、沖縄で。まだ9本目くらいだったから姿勢が悪くて...と照れる。現地では出会ったベテランダイバーが撮り、メールで送ってくれた。



(上)エダサンゴに群れるスズメダイの一種。(沖縄・座間味島)
(40ページ右上)イソギンチャクに隠れるハナヒラクマノミ。
(サイパン)

ベアのハマクマノミは、日本で見られる6種類
のクマノミの1つ。(沖縄・座間味島)

撮影/片桐慶子

そしていつかはジンベイザメに会いたい、と力を込める。固体数が少なく、出会うチャンスが少ないサメだ。

「会えるまでは何度だってチャレンジします!」

海の世界を楽しむのは特権?!

ダイビングをすると人生観が変わるという人がいる。片桐はどうだろう?

「う~ん、楽しみができたという点では変わったかもしれない。それに海中では、普段見れないものが見れる。ダイビングは泳げない人でも楽しめるものだけど、水が怖い、泳げないという理由で潜れない人もいるんだから、こんなふうに自然に海中の世界を楽しむのは、ある意味「特権」だなんて思う。お金はかかるけど、かけるだけの価値がある」

でも海中の事故は即、死につながるもの。怖くはないのだろうか?

「初めて潜った時は、圧迫感と口でしか呼吸ができない息苦しさがすごく怖かった。でもそれは知識がなかったから。ちゃんと講習を受けて、水中でも大丈夫なんだという理論が分かってからは怖くなくなりました」といって冷静。

幸い、今まで海で怖い目に会ったことはないという。

「エアが吸えなくなったり、漂流したりという友達の体験を聞くと怖いなあとは思んですけど、やっぱり自己防衛が必要ですよ」

最大の魅力は人との出会い

ダイビングには、魚以外にもいろんな出会いがある。初めて潜る海、行ったことのない国や島、現地ショップのガイド、一緒に潜るダイバー...。片桐にとって最大の楽しみは、人との出会いだ。

「1本でも一緒に潜れば友達になれるんです。ダイバーはみんなフレンドリーで、すぐにどこに行った?何をみた?っていう話しになる」

メールアドレスを教え合い、デジカメで撮った写真を送り合う。どこへ行ってきたか、次はどこへ行くか、メールでの交流が続く。ダイビングを始めて友達が増えた。

「海で知り合った人達と、東京で飲みに行くこともあるんですよ。その友達がほかの友達を連れてきて、どんどん出会いが広がっていく。そうやってできたダイバー友達は、もう20人。だけど来年は40人に増えてるかもしれません!」



かたぎりけいこ 1997年入社
今年6月、PADIの中級ライセンスである
アドバンスド・オープン・ウォーターも取得。
ハードスケジュールの講習では、
船酔いの友人を尻目に、
1本余計に潜るほどのバイタリティ。
始めてすぐの9本目の潜降中に
足ヒレを片方なくした経験から、
多少痛くてもきつく絞めるようにしてとか。

スキューバダイビング指導団体

現在、日本にある指導団体はPADI、NAUI、JUDFなど30以上。最大の団体は、アメリカで誕生し世界中にネットワークを持つPADI。
PADIの場合、Cカードはオープンウォーター・コース(初級)から取得する(学科講習10時間/プール実習7.5時間/海洋実習2日)。